

令和元年度あきた型学校評価シート
(秋田県立能代支援学校)

評価領域

生徒指導

重点目標	意思表示やセルフコントロールの力を高める生徒指導の充実		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害(30%)や肢体不自由(10%)のある児童生徒もおり、多様な実態に応じた学習指導や生徒指導を行う必要がある。 意思表示が適切にできず、情緒が不安定になってしまう児童生徒がいる。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の意思表示やセルフコントロールの力を高め、情緒をより安定させる。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の意思表示に関する課題一覧を作成し、状況を把握するとともに、状況に応じて支援機器を活用する。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人についての自己表現力に関する状況を共有し、個々に指導目標、方針、手立てを考える。 「学習上の支援機器等教材活用促進事業（文部科学省委託）」を活用し、支援機器等教材の選定と指導の検討や専門家からの助言を得ながら取り組む。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 課題一覧を作成し全児童・生徒について指導目標、方針、手立てを作成し、指導にあたった。 支援機器等教材選定活用について評価検討会議、中間報告会を実施し、外部からの意見も参考にした。 保護者や学校評議員から寄せられた意見等を職員会議で共有した。 		
自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の得意な方法で気持ちや思いを表現する態度とスキルが向上し、人との好ましいやりとりが増え、自ら関わろうとする態度が育った。 支援機器により意思表示の幅が広がりよかったという保護者の意見もあった。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> 学校の実践を保護者が理解していてよい。 支援機器だけでなく手話でのやりとりもよく、対大人だけでなく子ども同士のやりとりも増えた。 	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も継続して意思表示の力を高める指導に取り組む。 セルフコントロールについては、不登校指導も含め一層充実させる。 		A